

育成

2008 Jリーグ U-13、U-14 がスタート

地域のサッカークラブ、中学校、トレセンなども参加し、大会規模が拡大

育成年代における公式試合の機会を増やす目的で生まれ、13歳以下の選手を対象とするJリーグU-13が、今年も4月に始まり、新たにU-14のリーグ戦もスタートした。それぞれ、ポラリス(北海道/東北/北信越)、メトロポリタン(関東)、ボルケーノ(東海)、ヤマトタケル(関西)、サザンクロス(中国/四国/九州)の名を冠した5地域に分かれ、ホーム&アウェイ方式を基本に行われる。U-13は昨季、4つの地域のサッカークラブを含む48チームで始まったが、今季は112チームと大幅に増加した。さらにJクラブ

の下部組織だけでなく、「Jリーグからの呼びかけに多くの反応があって」(山下則之 Jリーグ技術委員長)地域のサッカークラブも増え、中学校、トレセンも新たに参加。U-14も昨季はU-13に参加した地域のサッカークラブや、新たにJFAアカデミー福島を加え、55チームで実施される。低年齢からホーム&アウェイ方式を経験し、わが国におけるリーグ戦文化の醸成にも寄与するこれらの年代別リーグ戦が、普及・強化の双方に果たす役割は計り知れない。



2008 Jリーグ U-13、FC千葉なのはな vs 柏イグルス

平成20年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を後援、および国連支援募金運動を協賛

Jリーグは、厚生労働省、財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターなどが主催する平成20年度「ダメ。ゼッタイ。」普及運動を後援する。また、同運動に併せて実施される「ダメ。ゼッタイ。」国連支援募金運動に協賛。「国連薬物乱用根絶宣言」(1998～2008年)の支援事業の一環として、国民一人一人の薬物乱用問題に対する認識を高め、併せて国連決議による「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」の周知と、内外における薬物乱用防止に協力する。実施期間は6月20日～7月19日。

第58回「社会を明るくする運動」に協力

Jリーグは昨年に続き、法務省が主唱する第58回「社会を明るくする運動」に協力する。すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動。強調月間となる7月1～31日に、試合会場での告知活動などに協力する。

実行委員選任・参与推薦

Jリーグは4月15日に開催した理事会で、右記の実行委員選任を承認、参与推薦を決定した。

クラブ名	実行委員	
	変更前	変更後
ジュビロ磐田	右近 弘 (株)ヤマハフットボールクラブ 前代表取締役社長	馬淵 喜勇(まぶち よしお) (株)ヤマハフットボールクラブ 代表取締役社長

参与
右近 弘：(株)ヤマハフットボールクラブ 前代表取締役社長 2005年1月～2008年3月(在任期間3年2カ月)

2007シーズン 登録抹消選手進路状況報告

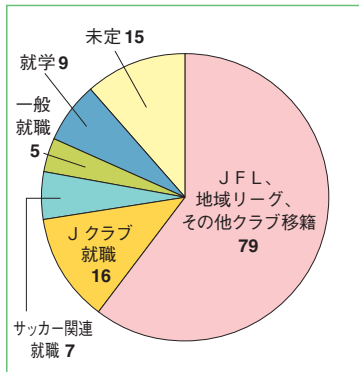
Jリーグキャリアサポートセンター(CSC)

■ 2007シーズン Jリーグ全登録抹消選手(シーズン中の移籍・退団含む)
全登録抹消選手数：131名(06年度：139名)

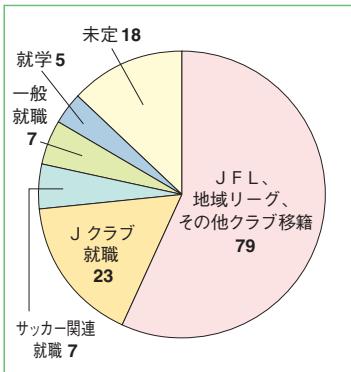
■ 進路先内訳(2008年3月31日時点)

2007シーズン 計131名

*参考 2006シーズン 計139名(2007.3.31時点)



*その他移籍には海外を含む



■ JFL・地域リーグその他への移籍 上位のクラブ

* JFL 移籍

1位	栃木SC	10名
2位	ガイナレ鳥取	6名
3位	FC琉球	5名
4位	カタレ富山	4名
	ファジアーノ岡山	4名

* 地域リーグその他移籍

1位	カマタマーレ讃岐	4名
2位	福島ユナイテッドFC	3名
	V・ファーレン長崎	3名
	FC町田ゼルビア	3名
	S.C.相模原	3名

■ 就職先 (JFL・地域リーグ引退者含む)

<サッカー関連>

大学サッカー部コーチ、高校サッカー部コーチ、サッカースクールコーチ、協会スタッフ ほか

<一般>

不動産会社、住宅建材販売会社、自動車部品販売会社、広告代理店、芸能プロダクション、福祉関連会社 ほか

■ 就学・復学先 (JFL・地域リーグ引退者含む)

<大学>

法政大学、静岡産業大学、中京大学、関西学院大学

<専門学校>

東京アカデミー、花田学園(柔道整復師)、シグマライセンススクール(警察官)、公務員専門学校(消防士)

2008年度スポーツ振興活動 第1期申請分の支援を決定

Jリーグは毎年、各Jクラブが実施するサッカー以外のスポーツ振興活動に対して支援を行っているが、2008年度第1期申請分（2008年3月18日申請締切）につき57件の支援を決定した。第2期申請は5月15日締切にて受け付ける予定。

2008年度 スポーツ振興活動支援 第1期承認一覧（2008年3月30日現在） ★=2008年新規支援対象

No.	クラブ名	行事名	対象種目	形式	参加対象者	開催期間	場所	日常型	その他	昨年実績
1	札幌	第4期コンサドーレ札幌スポーツスクールin Fu's	ウオーキング、登山、MTB、フットサル、トランポリン、カーリング、スキー、スノーボード、リュージュ、スノーシュー、スケートなど	教室	原則、小学3～6年	7月～2009年2月 (月2回)	札幌市緑野野外スポーツ交流施設および周辺地域	●	○	
2		コンサドーレ札幌スキーアカデミー in KIRORO 2008	スキー	教室、大会	小学生	4月12、13日	キロロ スノーワールド	●	○	
3		ベガルタ仙台 ソフトテニス教室およびソフトテニス指導者教室	ソフトテニス	教室	宮城県中学・高校ソフトテニス指導者ならびに中学・高校ソフトテニス選手	冬休み期間1回	宮城県内庭球場	●	○	
4	仙台	ベガルタ仙台 バリアフリーサッカー教室	障害者サッカー（電動車椅子サッカー、視覚障害者サッカー、脳性麻痺サッカー、知的障害者サッカー）	教室	宮城県内の障害者	5月～2009年1月 (月2回)	仙台市内	●	○	
5		ベガルタ仙台 女子サッカー教室	女子サッカー	教室	女子(小学6年～中学生)	夏休み期間中1回 (または2回)	仙台市内	●	○	
6	鹿島	鹿島アントラーズ剣道教室	剣道	教室	小学1年～中学3年	通年	鹿島神宮道場およびカシマスポーツセンター剣道場	●	○	
7		第10回鹿島アントラーズ杯ミニバスケットボール大会	ミニバスケット	大会	小学生	12月	カシマスポーツセンター	●	○	
8	水戸	水戸ホーリーホック バレーボール教室	バレーボール	教室	一般	5月～2009年3月 (週2回)	茨城県職業人材育成センター体育館	●	○	
9		水戸ホーリーホック 女子中学生サッカースクール	女子サッカー	教室	女子中学生	5～7月、9～12月	水戸市ツインフィールドほか	●	○	
10	草津	★2008ザスパ草津杯知的障害者サッカー大会	障害者サッカー	大会	群馬県内の養護学校生、養護学校卒業生または社会福祉施設利用者からなるチーム	7月27日	前橋総合運動公園 サッカー場	●	○	
11		レッズ・フレンドリー・フットサル【MIX】、【OVER40】	フットサル	大会	【MIX】18歳以上で女性2名以上含む、【OVER40】30歳以上で40歳以上2名含む	4～12月 (期間中週1回)	レッズランドフットサルコート	●	○	
12	浦和	レッズランドテニススクール	テニス	教室	一般、キッズ(小学3～6年)	通年(週3回)	レッズランド内テニスコート	●	○	
13		★ランニングプロジェクト	ランニング	教室	小学生以上	通年(週1～2回)	レッズランドグラウンド	●	○	
14	千葉	第8回 夏休み親子スポーツ合宿	サッカー、キャンプ、ゴルフ	教室	親子	夏期1泊2日	日本エアロビクスセンター、真名カントリークラブ	●	○	
15		サッカー&フラッグフットボールイベント	サッカー、フラッグフットボール	教室	小学生	8月	プロジスパーク内グラウンド	●	○	
16		第34回秋季家庭婦人バレーボール大会	バレーボール	大会	市原市家庭婦人バレーボール連盟に登録しているチーム	11月15、22日	市原臨海体育館	●	○	
17	F東京	F C東京 バレーボールチーム	バレーボール	チーム	一般	通年	東京都内	●	○	
18	東京V	第4回東京ヴェルディ稲城グリーン駅伝	駅伝	大会	一般、小学生、中学生、親子	5月6日	稲城中央公園総合グラウンドおよびその周辺	●	○	
19		東京ヴェルディ トライアスロンチーム	トライアスロン	チーム	一般	通年	アクラブ稲城ほか	●	○	
20	横浜FM	★横浜F・マリノス マリノスポーツチャレンジ	バドミントン、アウトリガーカヌー、スイムレース、ウインドサーフィン、ビーチサッカー	大会、教室	子供～一般	通年(5月以降)	材木座海岸、由比が浜海岸	●	○	
21		湘南ベルマーレ ビーチバレーチーム	ビーチバレー	大会、教室、チーム	自由	通年	平塚ビーチパークほか	●	○	
22		湘南ベルマーレ トライアスロンチーム2008	トライアスロン	教室、チーム	自由	4月1日～12月31日	湘南平塚ビーチパーク、馬入ふれあい公園ほか	●	○	
23	湘南	湘南ベルマーレ 女子ソフトボールチーム2008	ソフトボール	チーム、教室	女子	通年	厚木市を中心としたホームタウン各市町およびリーグ戦開催地	●	○	
24		ベルマーレビーチサッカー大会およびビーチサッカー教室	ビーチサッカー	大会、教室	子供～一般	4月～2009年3月 (月2回)	湘南ひらつかビーチパーク	●	○	
25		湘南ベルマーレスポーツクラブ オアシススクール2008	オアシススクール	教室	プールで100m以上泳げる中学生以上の健康な男女	5月17日～10月18日 (毎週土曜日)	湘南ひらつかビーチパーク	●	○	
26		ベルマーレカップ2008 第19回小学生駅伝競走大会	駅伝	大会	小学生	12月13日	平塚市総合公園	●	○	
27	甲府	初心者フットサル教室(ハッピーフットサル)	フットサル	教室	原則として幼児、女性、シニア	5月～2009年3月	県下全域	●	○	
28		アルビレックス新潟ゲートボール講習会	ゲートボール	教室	小学生以上	5～12月	エスフリー・フットサルコート、各学校、新潟市西総合スポーツセンター	●	○	
29		アルビレックス杯争奪ゲートボール大会	ゲートボール	大会	新潟市および近郊のゲートボールチーム	6月4日	東北電力スワンフィールド	●	○	
30		アルビレックス新潟ランニングクラブ合同ランニングクリニック	ランニング	教室	中学生以上の一般ランナー	4～10月(月2回)	東北電力ビッグスワンスタジアム、新潟市陸上競技場ほか	●	○	
31	新潟	アルビレックス新潟 フープクリニック	バスケットボール	教室	経験者、未経験者、指導者	6～12月(14回予定)	新潟県内体育館	●	○	
32		アルビレックス新潟サマースキーキャンプ	スキー(競技者向けオフトレーニング)	教室	ジュニアアルペン競技者(小学生～高校生)	7月、8月で各1回	長岡市営スキー場	●	○	
33		20年度 アルビレックス新潟 野球教室	野球	教室	小学生、中学生、一般保護者	6～12月 (月2回実施)	県内野球場および体育館	●	○	
34		第5回アルビレックス杯争奪ゲートボール大会	ゲートボール	大会	新潟市内のゲートボール愛好者	9月16日	新潟市中央公園芝生広場	●	○	
35		アルビレックス新潟ジュニアレーシングキャンプ	スキー(アルペン競技)	教室	小学生・中学生・高校生のスキー競技者	2009年1～3月 (全3回)	上中下越各地域のスキー場	●	○	
36		第11回ジュピロ磐田メモリアルマラソン	マラソン	大会	一般	11月9日	磐田スポーツ交流の里 ゆめりあ	●	○	
37		第2回ジュピロ磐田ミニバスケット	ミニバスケット	教室	小学3～5年	通年	浜松アリーナ	●	○	
38	磐田	★ジュピロヨガクラブ	ヨガ	教室	18歳以上の男女	通年(10回×4セット)	磐田市体育館ほか	●	○	
39		★ジュピロ磐田ソフトバレーボールクラブ	ソフトバレーボール	教室	18歳以上の男女	通年(月1回)	磐田市体育館ほか	●	○	
40		★ジュピロ磐田ソフトエアロビクスクラブ	エアロビクス	教室	18歳以上の男女	通年(月1回)	磐田市体育館ほか	●	○	
41		京都サンガF.C. GIRLSサッカーフェスティバル2008	女子サッカー	教室	小学生女子	7月6日	京都市西京総合運動公園陸上競技場兼球技場	●	○	
42		大人のサッカースクール「レディースクラス」、サンガクリニック「ガールズクラス」	女子サッカー	教室	レディースは中学生～55歳までの女性、ガールズは小学生女子	通年(全32回)	京都府立体育館	●	○	
43	京都	京都サンガF.C. ビーチサッカーフェスタ2008 In 網野	ビーチサッカー	大会	小学4年以上の男女	6月29日	網野町夕ヶ浦海岸	●	○	
44		京都サンガF.C. タグラグビー教室2008	タグラグビー	教室	小学生	9月28日	サンガタウン城陽グラウンド	●	○	
45		京都サンガF.C. ハンドボール・サッカー教室2008	ハンドボール、サッカー	教室	小学生	2009年2月15日	田辺中央体育館	●	○	
46		★第32回京都府家庭婦人バレーボール連盟 京都サンガF.C.カップ 秋季リーグ戦	バレーボール	大会	ママさんバレーボールチーム	10～11月	京都府立体育館ほか	●	○	
47	広島	トップス広島 スポーツクラブ	バドミントン、サッカー、バレーボール、バスケットボール、テニス	教室	幼児～一般(競技によって制限あり)	通年(週1回)	ひろぎんの森、(株)大野石油店屋内体育館、広島広域公園陸上競技場ほか	●	○	
48	愛媛	愛媛FC フィットネス&レディースサッカー教室	フィットネス、女子サッカー	教室	女性	通年(週1回)	愛媛フットサルパーク	●	○	
49		★愛媛FC おれんじカップ レクレーションバレー	バレーボール	大会、教室	女性	通年(月2回)	松山市野外活動センター	●	○	
50		アビスパ福岡視覚障害者サッカー支援活動	障害者サッカー	チーム、教室	視覚障害者	通年	福岡県立福岡高等盲学校	●	○	
51	福岡	アビスパ福岡タグラグビーフェスタ	タグラグビー	教室	小学4～6年	10月12日	福岡フットボールセンター	●	○	
52		第2回アビスパ杯ドッジボール大会(アビドッジ)	ドッジボール	大会	小学4～6年; 35～40チーム	10月26日	福岡市東区東体育館	●	○	
53		大分トリニータビーチサッカーフェスティバル2008	ビーチサッカー	大会	小学生以上	7月21日	姫島海水浴場	●	○	
54		大分東リトルシニア	野球	チーム	中学生	通年	大分市内、由布市内野球場、県内小学校グラウンド	●	○	
55	大分	大分トリニータ 知的障がい者サッカーリーグ、教室	障害者サッカー	大会、教室	知的障がい者・児、養護学校、養護施設	通年	大分スポーツ公園人工芝グラウンド	●	○	
56		★大分トリニータレディース U-15	女子サッカー	チーム	女子中学生	通年	大分スポーツ公園人工芝グラウンド、大分ガスほか	●	○	
57		★大分トリニータ スポーツ教室	サッカー、バスケットボール、バレーボール、タグラグビー	大会	小学生	8月	大分県サッカー協会 人工芝グラウンド	●	○	

日常型 34
その他 23
継続 46
支援合計

3 FC東京



大都市クラブを支える 小さな努力の積み重ね



味の素スタジアムの最寄り駅、京王線飛田給駅北口にある地下駐輪場の換気塔もクラブカラーに ©FC東京

都民のクラブへ

2007年12月23日、熊本空港の到着ロビーに一風変わった団体が現れた。サンタクロースのいでたちに、青赤のマフラーをまとった集団は楽しげに「♪FC東京～カミーン トゥ タウン」とクリスマスソングの替え歌を口ずさむ。彼らは第87回天皇杯全日本サッカー選手権大会の準々決勝が行われる熊本県民総合運動公園陸上競技場に向かい、サポーター一席には一足早いクリスマスが訪れた。

かつて「巨人・大鵬・卵焼き」といわれ、国民的な人気を誇るプロ野球の東京読売巨人軍は、東京のチームというより日本プロ野球の象徴で国民のチームであった。首都の東京をチームやクラブの本拠地とすることは、それだけ大きく、かつ抽象的な存在にもなりうる。

一方、Jリーグの活動方針の冒頭には、「地域の人々に夢と楽しみを提供します」と記されている。決して1クラブが「国民のクラブ」である必要はない。「東京＝一つの地域」とくくすることは難しく、大都市を本拠地に構えるということは、「自分たちのクラブ」という認識が希薄になる可能性がある。FC東京は、味の素スタジアムがある調布市や、クラブ所在地となっている江東区の名前をクラブ名とした方が、地域性という意味においては明確であったかもしれない。

それでも、東京から1000キロ以上も離れた熊本には、空路、多くのファン・サポーターが訪れた。それはFC東京が「自分たちのクラブ」として都民の間に浸透し始めていることの証である。FC東京はどのように地域の

人々と接しているのか。大都市クラブが続ける小さな努力の積み重ねの一端を紹介する。

商店会とのタイアップ

FC東京は都内の商店会と協力関係を結び、リーグ戦に「協力商店会の日」を設けた。はがきサイズの観戦カードを協力商店会の店内に置き、そのカードを持参してスタジアムを訪れると、エコバッグなどプレゼントがもらえる。回収したカードにはあらかじめ店舗のスタンプが押してあるので、どこの商店会からどれだけのファン・サポーターが実際にスタジアムへ足を運んだかも分かり、市場調査にも役立つ仕組み。さらには、カードの表面がシールとなっており、これを張って応募すると、FC東京からのプレゼントが当たるという楽しみもある。ファン・サポーターにも商店会にも好評な「協力商店会の日」の企画は今年で4年目。協力商店会は約200ある。

協力商店会の各店舗には、FC東京のポスター、街路灯バナーフラッグ、ミニフラッグなどが常に設置されている。ポスターは毎月更新されるが、基本的には担当者が店主に1枚1枚手渡しで掲示のお願いに回る。通信や流通の発達した東京で、なんとも手間のかかる作業であるが、「お互いが見える位置で接することが基本ですから」と、FC東京のコミュニティ アフェアーズ マネジャーの前野陽生氏は語る。ポスターを持参すると、店主から「サッカーってなに」という質問から始まり、翌月には「FC東京ってどんなチーム」と続き、数カ月後には「この前の試合は…」とサッカー談義になるそうだ。商店会の店主たちは、青年会議所やPTAなど多様なコミュニティツールを持っている。そこから広がるネットワークこそがFC東京の財産である。この地道な地域とのつながりから、「クラブと商店会が一緒にやっている姿をファン・サポーターに見せよう」、「商店会にもスタジアムにも足を運んでもらおう」という機運が高まり「協力商店会の日」は誕生した。

「われわれの行っていることは、もしかしたら遠回りなこともかもしれませんが、人と人を結ぶための近道が見つからなかったんです」と笑う前野マネジャーからは、地域の人々とクラブのさらなる一体化を実現させようという強い意志が感じられた。現在、東京都内

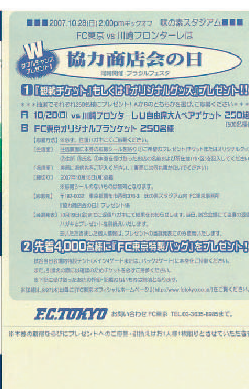
には少しずつではあるが着実にFC東京という文字、青と赤に染められた建造物なども増えた。商店会だけでなく、駅や市役所などにもその成果を見ることができる。「イレブンミリオンは高い目標だけど、自分たちができる活動を常に行っていけば、花が開くと信じている」(前野マネジャー)

クラブ関係者のたゆまぬ努力に対するご褒美として、スタジアムからサンタクロースの歌声がプレゼントされているのかもしれない。

(共同通信社 小泉 泰紀)



前野コミュニティ アフェアーズ マネジャー



協力商店会の日に配布される観戦カード(左、昨年のも)。カードと引き換えにプレゼントされるエコバック(右)

Jリーグは、誰もがさまざまなスポーツライフを楽しむことができる環境をつくることで、豊かで幸せな国づくりを目指す「Jリーグ百年構想」の実現に向けた活動に取り組んでいる。その活動の最前線ともいべき地域に根差したJクラブは、それぞれの地域の特色、実情などに応じて、多彩なプログラムを展開している。各クラブのホームタウンにおける取り組みを各地のメディアの視点から紹介するシリーズの2回目は、FC東京とヴァンフォーレ甲府にスポットを当てた。



4 ヴァンフォーレ甲府



あのときの「声」を忘れず 地域とのつながりを大切に

地道な活動から生まれた熱気

2008年3月9日。戦いの舞台をJ1リーグ戦からJ2リーグ戦に移して開幕戦を迎えたヴァンフォーレ甲府のホームスタジアム、山梨県小瀬スポーツ公園陸上競技場は、1万3000人を超すファン・サポーターで埋め尽くされた。開幕節のJ2で「大台」を突破したのは、このカードだけである。山梨県の人口は90万人に満たず、単純計算すれば約70人に1人がスタジアムに足を運んでいたことになる。

スタジアムを包み込んだ熱気は、一夜にして生まれたのではない。枯れかけた土地を耕し、種をまき、水をやって花を育てるように、クラブと地域が手を取り合った地道な活動によって「熱」は生まれた。

「われわれが地域密着をなぜ目指すのか。それは、あのときの県民の声があるからなんです」とクラブの運営母体であるヴァンフォーレ山梨スポーツクラブの今泉統括本部長は語る。「あのとき」とは、ヴァンフォーレ甲府が財政難から消滅危機に立った2001年秋。

「ヴァンフォーレは県民が残してくれたクラブ。県民にそっぽを向かれていたら、J1昇格という喜びも降格という悔しさも味わえなかった。あのときの『声』をわれわれ



今泉 統括本部長

は忘れてはいけない。地域とのつながりを大切にするのは、いわば義務のようなものなんです」(今泉統括本部長)

山梨県からJの灯を消すな——。そんな掛け声とともにクラブは県民のために、県民はクラブのために動いた。選手はイベントの要請があれば介護施設を訪問し、サッカー教室、町祭りといった催しに積極的に参加して「顔」を知ってもらう。フロントスタッフは町の商店街、企業をしらみつぶしに回って支援を募った。クリーニング店はユニフォームのクリーニングを、理容店は無料で散髪を、温泉旅館は入浴をサービスし、ホテルや料理店は食事会を主催した。パンや豆腐、キムチ、果実



クラブスポンサーの保有するアミューズメント施設におけるイベントに参加した選手たち(上)。鯉沢町の大法師公園さくら祭における選手サイン会(右) ©ヴァンフォーレ甲府

といった差し入れも、次々に練習場に届けられた。主催試合の運営にはボランティアのスタッフが当たった。

ヴァンフォーレ甲府という「ブランド」

小さなことからコツコツと——。クラブと地域とが一体となって育ててきた輪は、Jリーグが実施する「スタジアム観戦者調査」の数字に表れている。

2007年の調査によると、ヴァンフォーレ甲府主催試合の観戦動機について「クラブが地域に貢献しているから」と答えたファン・サポーターの数値は2年連続で全クラブ中トップ。クラブと地域の「ギブ・アンド・テーク」の活動は、7季連続の単年度黒字を達成した現在も変わることなく続けられている。

スタジアムに吹く熱を前に、かつての消滅危機は遠い過去のようにも思える。しかし、熱の高まりとともにファン・サポーターがチームに求める強さのハードルも上がった。熱を一過性にさせないためにはチーム力のさらなる強化が求められる。この視点からクラブを取り巻く環境を見ると、行政の支援が不足しているような気がしてならない。

山梨県は7年前、山梨県小瀬スポーツ公園陸上競技場の使用料の減免措置を決めた。この措置は現在も継続しており、クラブが被る恩恵は大きい。甲府市、韮崎市も練習場の使用料を免除しているが、甲府市が保有してい



る練習場は昨年から一度も使用されていないのが現状だ。4月には甲府駅から車で約30分の場所にある昭和町に完成したグラウンドの供用が開始されたが、「天然芝は週2回」「1回につき3時間の利用」と制限が設けられている。こうした行政の姿勢には「特別に支援せずとも、ヴァンフォーレは独り立ちした」との判断が透けて見える。

「練習環境さえ整えばもっといいクラブになれる。グラウンドから発信するものはたくさんあるはず。子供にサッカーの、スポーツの楽しさを伝えたい。家に閉じこもるんじゃなく、外で遊ばせてあげたい。ヴァンフォーレがそのきっかけになってくれれば、これ以上の喜びはない」(今泉統括本部長)

県や各自治体の首長にはヴァンフォーレ甲府という「ブランド」を上手に活用してみようという意気込みがほしい。クラブと地域の人々の思いに行政の熱意が上乘せられたとき、ヴァンフォーレ甲府というクラブは「スポーツでつくる幸せな県」のシンボルとして、さらなる輝きを放つはずだ。

(山梨日日新聞社運動部 伊藤 直樹)



三つの事実



サッカージャーナリスト ◎Mike Plastow (マイケル プラストウ)

PROFILE

1959年、英国のサセックス州生まれ。80年来日。83年から現在まで、NHK国際局などで、放送原稿の執筆、翻訳業務を担当。群馬大学(84-91年)や日本大学(92-96年)で講師を務めたこともある。科学史の大学教科書から英和辞典(英文校閲および執筆)、日本の山のハイキング案内本までさまざまな著作物を手がける。このコラムも日本語で執筆した。91年から、英国「ワールドサッカー」の日本担当として、JSL、Jリーグ、日本代表、アジア大会、アジアカップ、ワールドユース選手権、FIFAワールドカップなど、日本のサッカーをフルに取材してきた。ケンブリッジ大卒。

分かりきったことだとしても、人によって違う見方をする場合があります。個人的な前提や経験による解釈の違いも表れます。私は日本のサッカーを書く外国人ですから、やはり周りの人との見方の相違が相当あります。

難しい話ではなく、11歳の子供の話を紹介しましょう。イングランドに住む甥の話です。三年ほど前に、互いに難しい質問をするクイズ・ゲームをしていました。「日本の都市の名前、幾つ言える?」、私は甥に聞きました。

勿論、広島、長崎と東京は知っていると思っていました。イギリスの11歳の子供なら、みんなその三都市は知っています。やはり、甥も「広島、長崎、東京」でスタートしました。しかし、驚くことに、その後も答えは続けられました。「清水、磐田、浦和、カシワカシマ、どっちだったか忘れた」「両方だよ」「そうだね、レイソルとアントラーズだね。市原、仙台…」

つまり、彼はJリーグのチームを知っていたのです。この奇跡はどうやって起こったのでしょうか。残念ながら、彼は私の記事を読んでいませんでしたが、彼がプレイするサッカーゲームの中には、Jリーグチームも使われていました。11歳のイギリスの子供の世界では、Jクラブは有名なのです!

私は11歳のころ、テーブル・フットボール・リーグを友達と一緒に、又一人でも、よくやっていました。世界からクラブ・チームの名前を集めて、私たちのリーグにもそのクラブを参加させました。選手の名前も集めようとしたのですが、情報がないので、その国の有名人の名前を借りました。キューバのチームなら、勿論カストロやゲバラが出場しました。日本のクラブ・チームなら、裕仁(昭和天皇)、東郷(平八郎)や紫(式部)を選手として参加させました。そこには超現実的で、11歳の子供なら、非常に満足するリーグがありました。

本当のサッカーも勿論やりましたし、町のチームのホーム・マッチの時には、友達と一緒に応援しました。イングランド南部リーグでしたが、全国的に言えば6部リーグでした。弱かったのですが、11歳の少年だった私には素晴らしいチームでした。スカーフ、ロゼット、バッジも着用して、大声で応援しました。時々、30分間の自宅へ歩く帰り道でも、ずっと応援が続きました。き

と近所で迷惑だったことでしょうか!

小さいクラブ・チームを応援することは、地理の勉強にもなりました。この場合、イングランドの地理でした。すべての小さいチームの名前を、ランキングで500番目位まで、覚えていました。今でも、プレミア・リーグより、「ノン・リーグ」(=5部リーグ以下)の試合へ足を運ぶサポーターの人数が多いとはよく言われています。スタジアムへの距離が短いことやチケットが安だけが理由ではなく、自分のチームだからなのです。

一番興奮する試合はF.A.カップの予選や本大会の第3ラウンドまででした。一番小さいチームが出場する予選は9月から始まり、翌年5月の決勝戦を目指しました。各地域には素晴らしいライバルもいて、どんどん勝ち進めば上のリーグのチームとの対戦を大いに楽しむことができました。地域のクラブには、本大会の第1ラウンドに出れば3部、4部リーグのチームと、さらに第3ラウンド以降は1部リーグのチームと対戦できるという夢がありました。勿論、大きなチームのサポーターにも、F.A.カップは興奮する大会ですが、小さいチームのサポーターにとって、本場に最高の大会なのです。

この話から、三つの事実と私の提案を挙げてみましょう。

その一 外国の人、特に子供は、Jリーグに対して関心を持っています。

子供にとって、サッカーは夢でもあり、想像上の旅でもあります。世界一周ができるのです。新世紀に入って、情報は溢れるようになりました。甥のチームに東郷や紫はもうサテライト・リーグにしか出られない時代になりました。なぜなら本当のJ選手の名前を使うからです。ちなみに、情報の最先端はテレビではありません。ゲームです。その次には、インターネットでしょう。ここまで、子供の話をしましたが、大人についても同じようなことが言えると思います。外国のどこへ行っても、サッカーに関心がある人が私にJリーグのことを聞いてきます。

勿論、私が日本にいるサッカージャーナリストだからこそでしょうが、それでも日本のクラブ・サッカーに関心を持つ人が世界中に多くいます。又、Jリーグ・スポンサーやクラブ・スポンサーにとって、ゲームやインターネットに注目すべき世界的なビジネス・チャンスがまだ多く残っているはずですよ。

その二 サッカーの世界でも、「世界規模ものを考え、身近な地域で活動しなさい」

子供たちは地域のチームを熱心に応援します。ビッグ・クラブは遠くて、憧れの存在ですが、地域チームは自分のものです。ちなみに、日本では、地域チームは数が足りません! ビッグ・クラブの最近15年間の成長は素晴らしいのですが、日本では30クラブではなく、300クラブが必要です。もしかしたら、日本サッカーのこれからの成長は小さなクラブ・チームしだいなのかもしれません。非常に低い予算でも、活発で、応援の対象になれる地域チームや地域リーグが大きな役割を果たせると思います。J東海リーグ、J関東リーグ、J東北リーグなどの地域リーグの時代が来るべきなのかもしれません。

その三 リーグ戦が一番強いチームを決めますが、カップ戦が一番興奮するものです。

ワールド・カップやF.A.カップを見れば、お分かりになることと思います。しかし、日本の場合はどうでしょうか。JリーグやマゼキナビスコカップもJ2参加でリーグ・カップとして再構成する時期が来たのかなと思います。J2チームがJ1チームと戦うことは、若いJ2サポーターに夢を与えるでしょう。天皇杯も、市町村を代表するホーム・タウン・チームだけに絞ったら、もっと活気的な大会になるのではないのでしょうか。

私が挙げた三つの提案は当然のことだと思われるでしょうか。そうは思われないかもしれませんがね。しかし、この15年間、日本サッカー文化は、Jリーグのおかげで、大きく変わりました。私はこれからの発展も、大いに見守りたいと思います。



「Jリーグニュース」は100%再生紙を使用しています。